

タイトル	若い力が未来を切り開く・略歴・研究業績
著者	井上，真蔵；INOUE, Shinzo
引用	北海学園大学人文論集(58)：7-14
発行日	2015-03-31



井上真蔵教授

若い力が未来を切り開く

井 上 真 蔵

北海学園北見大学に赴任したのは32年前のことです。振り返ってみれば、アッという間の32年間でした。初めて教え始めた時には、新入生とは20歳の年の差でした。しかし、今では半世紀という年齢差になってしまい、やはり様々な点でジェネレーション・ギャップを感じる日々となってしまいました。

北海学園大学には人文学部の創設とともに赴任してきましたが、今から言えば真に牧歌的とも言える時代でした。今では年3回のオープンキャンパスも父母懇談会も当たり前のことになりました。入試には、センター試験の1期と2期が加わりました。当時はこのようなことは何もなかった時代で、そんなところにも時代の変化を感じない訳にはまいりません。また今日では、スーパージョーバル大学というスローガンのもとに、大学にまで国際化の波が押し寄せて、自ら変革せざるをえない時代となってきました。ほんとうに大変な時代になったと感じます。しかし、人文学部の若い先生がたの近頃の活躍ぶりを目の当たりにして、非常に心強く感じている次第です。もう70も間近になると、自分で掛け声をかけても、体がついていかなくなってきますが、さすがに若い方たちは、掛け声をかけるまでもなく次から次へと仕事をこなしていています。まさに人文学部の明るい未来を感じさせるものだと思います。

変革の兆しとして、カナダでの研修にテーマを与えてはという意見とか15回の授業の中に組込んでとの議論も聞かれ始めました。何らかの工夫をすれば現在の研修を充実させることができるものと思います。これまで、カナダの歴史やカナダ文化、あるいは異文化理解論の授業の中で、ブロック大学研修と関連ある事柄を取り上げるようにしてきました。しかし、ブ

ロック研修に参加する学生の中でも、興味のある一握りの学生が学ぶに過ぎませんでした。実は、オンタリオ州自体がアパー・カナダと呼ばれていた時から建国の中心的な役割を果たしました。ブロック大学のあるナイアガラ地域は、アメリカ軍が1812年に侵入してきて激戦地となった場所でもあり、辺りには多くの歴史的遺跡などが存在しています。そして、ブロック大学という名前自体、1812年の戦争の英雄アイザック・ブロック少将をたたえて創設された大学です。このような所ですから、適切なテーマはいくらでもあると思います。また、異文化理解論の視点からは、ホームステイ先もそうですが、ブロック大学のキャンパスや教室内もまさに格好の異文化交流実践の場所と言えるでしょう。そのような環境の中で、自らの目で観察したり、インタビューをしたりして、素晴らしい成果をあげることができるものと思います。しかし、本気でやろうとすれば、各テーマをどのように位置づけるのかという全体的な知識と視点が不可欠であり、学生たちにしてもかなりの準備と勉強が必要になると思います。

思えばこの20年間、人文学部では自由な教育と研究生生活をおくらせていただいたことは、何よりも有り難いことでした。同僚のみなさま方と事務の方々にお礼申し上げます。生まれ育った淡路島を出たのが半世紀前のことです。まさか札幌という北の大地で、このような幸せな定年退職を迎えるとは思ってもいませんでした。

去り行く身ではありますが、これからも陰ながら応援をしてゆきたいと思っています。どうか力を合わせて、人文学部の未来を切り開いていかれますよう祈っております。

略 歴

いのうえ しんぞう
井上 真蔵 1946 年 12 月 6 日生

学 歴

昭和 44 年 3 月 北九州大学外国語学部米英学科卒業（文学士）
昭和 44 年 4 月 国際基督教大学大学院行政学研究科修士課程国際関係論
専攻入学
昭和 47 年 3 月 国際基督教大学大学院行政学研究科修士課程国際関係論
専攻修了（行政学修士）
昭和 51 年 9 月 トロント大学大学院政治経済学部博士課程国際関係論専
攻入学（カナダ政府国費留学生）
昭和 58 年 3 月 トロント大学大学院博士課程単位取得

職 歴

昭和 47 年 4 月～昭和 48 年 3 月 国際基督教大学社会科学研究所助手
昭和 48 年 4 月～昭和 50 年 8 月 国際基督教大学社会科学研究所研究員
昭和 58 年 4 月～昭和 59 年 3 月 北海学園北見大学講師
昭和 59 年 4 月～昭和 62 年 3 月 北海学園北見女子短期大学助教授
昭和 62 年 4 月～平成 7 年 3 月 北海学園北見女子短期大学教授
平成 7 年 4 月～現在に至る 北海学園大学人文学部教授

所属学会等

昭和 47 年 9 月～昭和 55 年 8 月 日本国際政治学会会員
平成 9 年 9 月～平成 14 年 8 月 日本コミュニケーション学会会員
昭和 55 年 7 月～現在に至る 日本カナダ学会会員（理事）
平成 17 年 4 月～現在に至る 北海道カナダ協会会員（理事）

主な研究業績

著書・論文

1. “The North China Incident through the Lens of the Bureaucratic Politics Model” *The Journal of Social Science*, No. 13, 国際基督教大学, 1975 年。
2. “The North China Incident through the Lens of the Bureaucratic Politics Model (II)” *The Journal of Social Science*, No. 14, 国際基督教大学, 1976 年。
3. “The North China Incident through the Lens of the Bureaucratic Politics Model (III)” *The Journal of Social Science*, No. 16, 国際基督教大学, 1978 年。
4. 「カナダの選挙」, 辻清明監修『世界の議会 11 巻 カナダ・中米』, ぎょうせい, 1983 年。
5. 「異文化接触とコミュニケーション」, 『北海道から』(特集: 国際交流の光と影) 北海学園, 1985 年。
6. “Assumptions and Validity of Five Major Models in the Study of Decision-Making in Foreign Policy,” 『北見大学論集』16 号, 北海学園北見大学, 1986 年。
7. “Psychological Approach to Foreign Policy Decision Making,” 『北見大学論集』16 号, 北海学園北見大学, 1986 年。
8. “Bureaucratic Politics Model Reconsidered” 『北見大学論集』17 号, 北海学園北見大学, 1987 年。
9. 「国際化の一側面 — 北海道とカナダとの姉妹都市関係について」, 『北見大学論集』29 号, 北海学園北見大学, 1993 年。
10. 「カナダのイメージ — 異文化接触としての姉妹都市関係の視点より (I)」『人文論集』(第 9 号), 北海学園大学, 1997 年。
11. 「ボーダーを越える『ケベックの歌姫』」, 『人文論集』(第 20 号), 北海

学園大学，2001 年。

12. 「カナダとの姉妹都市関係の特徴とその影響 — 江東区とサレー市のケースについて —」，『人文論集』（第 26・27 合併号），北海学園大学，2004 年。
13. 「カナダとの姉妹都市関係 — 何を学ぶか —」，『めいぶる』北海道カナダ協会会報（第 71 号・創立 25 周年記念号），北海道カナダ協会，2004 年。
14. 「カナダとの姉妹都市関係の特徴とその影響 — 牛久市とホワイトホース市のケースについて —」，『人文論集』（第 31 号），北海学園大学，2005 年。
15. 「カナダとの姉妹都市関係の分析 — 世田谷区とウィニペグ市の姉妹都市関係 —」，『人文論集』（第 34 号），北海学園大学，2006 年。
16. 「カナダとの姉妹都市関係の特徴とその影響 — 板橋区とバーリントン市のケースについて —」，『人文論集』（第 37 号），北海学園大学，2007 年 10 月。
17. 「異文化接触としての姉妹都市交流 — 日本とカナダの事例から考える」，『開発論集』第 84 号，北海学園大学開発研究所，2009 年 9 月。
18. 「転換期にたつ姉妹都市交流 — 交流成果を明日に架ける橋に」，『北海学園大学学園論集』（第 141 号），2009 年 9 月。
19. 「事例に見る効果的な姉妹都市交流推進のヒント」，『めいぶる』（第 79 号），北海道カナダ協会，2010 年 3 月 31 日。
20. 「異文化接触としての姉妹都市交流 — 守口市とニューウェストミンスター市のケース —」，『人文論集』（第 53 号），北海学園大学，2012 年 11 月。

翻訳

- ・J. リッカー，J. セーウェル『カナダの政治』，ミネルヴァ書房，1978 年。
担当箇所（4 章：カナダの議会制度，5 章：議会と新聞，6 章：オタワと州；日本におけるカナダ研究振興事業としてカナダ大使館より資金提供）

書評

- ・グレアム・T・アリソン『決定の本質 — キューバ・ミサイル危機をめぐって』(Graham T. Allison: *Essence of Decision-Explaining the Cuban Missile Crisis*, 1971), モートン・H・ハルペリン『官僚政治と対外政策』(Morton H. Halperin: *Bureaucratic Politics and Foreign Policy*, 1974), 『国際政治』日本国際政治学会, 1976年7月。

その他

- ・「学生時代の私 — 武蔵野のキャンパスで」, 『北海道から：特集北海学園大学人文学部のすべて』北海学園, 1993年1月。
- ・「カナダの大学に見るグローバル化の胎動」, 『日本カナダ学会北海道ニュース』2002年3月31日。
- ・「異文化の中の図書館」, 『図書館だより』2005年10月31日。
- ・「私が薦めるこの1冊：林文子『失礼ながら、その売り方ではモノは売れません』」, 『図書館便り』2011年10月。
- ・「Hello 学問, Goodbye 勉強」, 『大学案内』北海学園大学, 2001年。
- ・「ブルームボール」, 「カルガリー」, 『メイプル豆辞典』日本カナダ学会, 2012年。
- ・「北海道カナダ姉妹都市会議」, 『日本カナダ学会北海道ニュース』2013年3月31日。
- ・「異文化と姉妹都市交流」, 『北海学園大学学報』2013年12月1日。

学会発表等

- ・“Sister City Relations between Hokkaido and Canada,” *Symposium: Japan in Canada and Canadian Studies in Japan*, 日本カナダ学会北海道支部研究大会, 北海道大学, 1990年4月21日。
- ・「姉妹都市関係とコミュニケーション」日本コミュニケーション学会, 第6回北海道支部大会, 札幌大学, 1997年10月25日。
- ・「北海道とカナダ：交流の現状と課題 — 親善交流から相互学習を目指して」日加フォーラム・シンポジウム「カナダに学ぶ」, 札幌グランドホテル, 1998年10月16日。

- ・「変化する社会におけるコミュニケーション」日本コミュニケーション学会，第7回北海道支部研究大会，札幌大学，1998年10月17日。
- ・「カナダに見るグローバルコミュニケーション——日本人の視点から考える——」日本コミュニケーション学会北海道支部第10回研究大会，北星学園大学，2001年10月13日。
- ・「カナダとの姉妹都市関係——何を学ぶか——」日加修好75周年・日本カナダ学会・北海道カナダ協会創立25周年記念事業，カナダ大使館・日本カナダ学会・北海道カナダ協会主催，北海学園大学国際会議場，2004年8月21日。
- ・「事例に見る効果的な姉妹都市交流推進のヒント」（基調講演）第18回北海道・カナダ姉妹都市会議，札幌プリンスホテル国際館パミール，2009年6月11日。
- ・「ホームステイを考える」第19回北海道・カナダ姉妹都市会議，かでる2・7，2010年10月26日。

学会活動1（日本カナダ学会北海道地区研究会開催）

- ・高木康一（北海道教育大学教育学部函館校・准教授）「カナダの統治機構のユニークな構造」，北海学園大学，2010年12月11日。
- ・長谷川圭佑（元北海道カナダ協会事務局長）「北海道カナダ協会34年の活動を振り返って」，北海学園大学，2011年7月23日。
- ・小滝聰（拓殖大学北海道短期大学副学長）「深川市の姉妹都市交流の経過と課題」，2012年3月17日。
- ・菊地洋（岩手大学教育学部准教授）「カナダにおける多文化主義——多様性に配慮する権利解釈——」，北海学園大学，2012年12月8日。
- ・岡部敦（札幌大谷大学講師）「アルバータ州の高校職業教育政策」，北海学園大学，2013年12月7日。

学会活動2（日本カナダ学会北海道地区会報発行）

- ・『日本カナダ学会北海道ニュース』（第26号），2011年3月31日。
（「カナダデモクラシーの一形態」，「北海道カナダ協会事務局長に就いて」）

- ・『日本カナダ学会北海道ニュース』(第27号), 2012年3月31日。
(「辿ってみたいカナダ人宣教師の足跡」, 「転機を迎えた姉妹都市交流」)
- ・『日本カナダ学会北海道ニュース』(第28号), 2013年3月31日。
(「多文化主義と文化多元主義 — カナダ社会の多様性」, 「北海道カナダ姉妹都市会議」)
- ・『日本カナダ学会北海道ニュース』(第29号), 2014年3月31日。
(「アルバータ州の高校職業教育政策について」, “Tokyo Forum, Sapporo Symposium, and High School Visits — A Memorable Experience”)

社会活動 (北海道カナダ姉妹都市会議企画実施)

- ・第16回北海道カナダ姉妹都市会議(転機にたつ姉妹都市交流 — 今, カナダから何を学ぶか —), 北海道カナダ協会, かでる2・7, 2007年12月3日。
- ・第18回北海道カナダ姉妹都市会議(交流の成果の蓄積と活用をどのように進めるか), 北海道カナダ協会, かでる2・7, 2009年6月11日。
- ・第19回北海道カナダ姉妹都市会議(ホームステイを楽しもう — ホームステイのノウハウと心構え), 北海道カナダ協会, かでる2・7, 2010年10月26日。
- ・第20回北海道カナダ姉妹都市会議(姉妹都市ホームステイ — その意義と効果), 北海道カナダ協会, かでる2・7, 2011年11月13日。
- ・第21回北海道カナダ姉妹都市会議(姉妹都市事業の果たす役割について), 北海道カナダ協会, 北海道銀行本店ビル会議室, 2012年11月16日。
- ・第22回北海道カナダ姉妹都市会議(姉妹都市交流と地域振興), 北海道カナダ協会, 北海道銀行本店ビル会議室, 2013年9月13日。
- ・第23回北海道カナダ姉妹都市会議(カナダの行政制度の理解を通した今後の交流事業への取組), 北海道カナダ協会, 札幌プリンスホテル, 2014年11月28日。